

TOPICS

発行 西予市復興支援課
電話 0894(62)1455

- ◆ のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編③）を開催しました！
- ◆ 野村地区災害公営住宅の建設工事を開始しました。
- ◆ 「のむらからの手紙～応援するけんがんばってや～」が完成！

のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編③）を開催しました！

■基本設計に向けたワークショップ（アクション編③）の開催

これまでの、のむら復興まちづくりデザインワークショップ（全6回）でまとめられた「のむら復興まちづくり計画」に基づき、「河川沿いの魅力的な空間づくり」を具体的に推進していくための検討を行う場として、「のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編③）」を開催しました。

愛媛大学社会共創学部 松村暢彦教授の進行のもと、計画案の確認と利活用・運営に向けた検討のディスカッションを行いました。

【のむら復興まちづくりデザインワークショップ（アクション編③）の開催概要】

日 時：2020年7月13日(月) 19:00～

会 場：乙亥会館 アリーナ

主 催：西予市

協 力：愛媛大学、東京大学復興デザイン研究体

参加者：42名（野村地区自治会、社会教育団体などの公的団体代表者、西予市内在住者など）

主な内容：○復興事業の進捗状況と今後の事業展開について

○今回のワークショップについての主旨説明

○河川沿い空間の基本設計検討案の説明

○グループワーク ①計画案について ②利活用・管理運営について

○グループワークの発表とまとめ



▲ 趣旨説明



▲ グループワーク



▲ 各グループの意見の確認

■ワークショップの開催結果

今回のワークショップでは、前半は前回までのワークショップをふまえてまとめられた基本設計の計画案を確認し、お気に入りのポイントと今後の工夫ポイントについてディスカッションを行いました。より具体的に使い方を想定しながら各班で計画案を確認し、配置や面積に関する意見、施設に関する意見、さらには、魅力的に運営し人を呼び込むためのアイデアや管理運営に対する気がかりなこと、課題についての意見が挙げられました。後半は整備後の利活用・管理運営に向けてのディスカッションを行い、管理運営の主体や仕組みから、みんなで河川沿い空間を育てていくための積極的なアイデアまで活発に意見を出していただき、充実した内容のワーキングとなりました。

■ 計画案に対する主な意見

ワークショップでグループごとにいただいた意見の一例をご紹介します。計画案のお気に入り、課題ポイントの観点で議論を行いました。また整備後の管理・運営についてのアイデアもいただきました。

乙亥・まちなかエリア

- 交流広場の園路幅が5mあることで色々な利用が見込まれる。
- 芝生さじきは、住んでいる人たちが立ち寄れる場所で、ちょっとしたおしゃべりができそう。
- 雨をしのぐなら交流広場の真ん中にあるステージに必要なのでは？
- イルミネーションなどが設置できるよう、電源が欲しい。
- 野村地区の案内板もほしい。
- イベント時で活用することを考えると、商工会、自治振興協議会、JA青年部、婦人会との連携が考えられる。

- : お気に入り・おすすめポイント
- : 今後の工夫・課題ポイント
- : 管理・運営についてのアイデア

自然と憩いのエリア

- 親水空間があるのが良い。肱川はいつも水が流れていて、街から水を感じられるのが良いと思う。
- 子どもたちの思いが詰まった施設ができたらいと思う。
- 親水空間を設けるのはよいが、水質は大丈夫かどうか不安である。
- 芝生の広場が多くなると今後管理が大変だと思う。
- 広場などの広い場所の管理は、機械管理を考えてはどうか。

レクリエーションエリア

- スポーツコートは市外からも若者が集まると思うので、とてもよいと思う。
- 3on3のコートがあるのが気に入っている。
- トイレはエリア真ん中の休憩所の近くがよいと思う。
- 土の広場（臨時駐車場）付近には植樹しない。
- 野村スポーツクラブに管理運営してもらってはどうか。色々な団体も所属している。
- スポーツ大会など収益イベントを開催して、管理費を補うなどの工夫が必要。

三嶋神社周辺エリア

- 野村高校の実習の場として活用できる畑のゾーンは、とてもいい考えだと思う。
- 桑の木は製糸工場のイメージがあるので親しみがある。問題は保水力。
- 蝶やカブトムシ等が集まる樹木を植栽してはどうか。
- プナの木は葉っぱがよく落ちるので、管理するのが大変。
- 草刈りは、野村高校畜産科の実習として行ってはどうか。

全体を通しての意見

- もしもの時の水害にも耐えられる空間に、ほぼなっていると思う。
- エリア全体を回れるように自転車の貸し出しもやってみてはどうか。
- 写真映えできる所があれば中高生の情報発信が増えると思う。
- 防災の日と一緒に「記念日」を制定してみんなで年1回掃除を行う。
- 環境活動の助成金を申請していく。
- ボランティアをポイント制にするなど、継続しやすい仕組みを考える。
- いろいろな団体に参加してもらい（仮）地域づくり活動センターがとりまとめるのはどうか。
- 「まちを庭に」…みんなで関わって、育てていく場所になるとよい。

■ 今後に向けて

今回のディスカッションをふまえて基本設計をまとめていきます。次回からは右岸側の菜園の利活用方法をテーマにした新シリーズに移行します。

野村地区災害公営住宅の建設工事を開始しました。(問合せ先：建設課 0894-62-6410)

■ 災害公営住宅とは

災害により住宅を失い、自ら住宅を確保することが困難な方に対して、安定した生活を確保してもらうために、市が国の助成を受けて整備する公営住宅です。

■ 整備計画について

市では、消防署野村支署裏に集合住宅3棟24戸、野村町太田団地に戸建て住宅17戸を整備します

《参考：配置計画図》



《参考：消防署野村支署裏集合住宅イメージ図》



■ 現在の状況

住宅の建築工事に着手しました。市内業者に発注し、一日も早く入居できるよう工事を進めています。近隣の皆様には工事中、車両の通行や騒音等で大変ご迷惑をおかけいたします。何卒ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

「のむらからの手紙～応援するけんがんばってや～」が完成！

のむらからの手紙 ～応援するけんがんばってや～

アカペラグループ INSPi (インスピ) のリーダー杉田篤史さんと野村小学校6年生が、全国へ応援メッセージを届ける歌「のむらからの手紙～応援するけんがんばってや～」を制作しました！

新型コロナウイルスにより日本全体が不安感に包まれた今だからこそ、災害を経験した2年前に受けた多くの支援への感謝を胸に、歌で恩返しができないか。そんな思いから制作は始まりました。杉田さん講師のもと、野村小学校6年生の児童たちは、「大切な人に届けたい言葉」をテーマに歌詞をつくり、一生懸命歌の練習を繰り返し、災害から2年となった7月7日に全国に向けて公開しました。皆さんにも是非届きますように。

■ INSPi リーダー 杉田篤史さんよりメッセージ

豪雨災害の後、子どもたちと「のむらのうた」をつくり、それがきっかけで野村とのご縁ができ、こうして続けているのが本当にありがたい想いです。今回は野村小学校6年生のみんなと約1ヶ月間のオンライン授業（対面ではなく、遠く離れた場所をテレビで繋ぎ授業をすること）を重ねオリジナル曲「のむらからの手紙」をつくりました。歌づくりに大事なものは「情景」「オリジナリティ」「伝える」です。「情景」は目に見える景色に自分の感情をのせることですが、きっと野村の風景を見たことがない人にもいろんな感情を思い起こすような風景がここにはあって、それを子どもたちの中から引き出したいと思いました。そして「オリジナリティ」、他人と違うことに恥ずかしさを感じたりすることはきっと誰にでもあります、人と違う独自性に価値があって、それをみんなも大切にしてほしいと話しました。最後は「伝える」、自分の心の中にあるものを誰かに伝えるのは難しいことだけど、工夫して相手に気持ちのいい形で伝え共にすることでたくさんの人生の喜びが得られると僕は思っています。そんな話を重ね、子どもたち自身の言葉から素晴らしい歌が生まれました。ぜひみなさんも何度も聴いてよかったら歌って楽しんでください。また落ち着いたら必ず伺いたいと思っています。会ってまたみなさんと歌える日を楽しみにしています。



▲INSPi (右から3番目が杉田さん)



子どもたちの力には毎回驚きと感動でした！

「のむらからの手紙」は動画共有サイト YouTube で配信しています。是非ご覧ください。



<https://youtu.be/TU3n-Xg2Fn4>